


南関東防衛

平成27年
秋号

平成27年秋号 年4回発行 第9号

特集

- 防衛白書紹介
- 第26回防衛問題セミナー
- ビッグレスキューかながわ
- FMブルー湘南「遊びに来ませんかスタジオへ」



東富士演習場総合火力演習

防衛白書

7月21日の閣議において、中谷防衛大臣は平成27年版防衛白書を報告し、了承されました。

防衛白書は、わが国の防衛政策への理解を深めていたため毎年刊行しているものであり、今回はA4版にし、記述の集約や余白の排除などによりコンパクト化を図るとともに、文字フォントの拡大により見やすさを向上しております。

南関東防衛局では防衛白書の内容について管内の自治体に対して説明を行っております。今回は、平成27年版防衛白書について紙上で紹介し



平成27年版防衛白書の特徴

防衛白書は、前回の刊行から概ね1年を主な対象として、その間に発生した事象や取りまとめられた政策事項などを中心に記述しています。

平成27年版防衛白書は、

①北朝鮮による核・弾道ミサイル開発や、中国の海空域における活発な活動など、一層厳しさを増すが国を取り巻く安全保障環境、また、ISILなどの国際テロ組織の活動の活発化・拡散などグローバルな安全保障環境におけるリスク、

②平和安全法制2法案の経緯と概要、新ガイドラインや日米「2+2」、沖縄の負担軽減などを含めた日米同盟の強化や防衛省改革、

③各種事態に対する実効的な抑止及び対処や27年度防衛力整備、人的基盤の整備などを一括して記述した統合機動防衛力の構築に向けた取組、防衛装備・技術協力の推進、安全保障協力の積極的な推進としての各国との防衛協力・交流、

これらを中心により多くの方々に分かり易くお伝えできるようにコラムや図表を充実させて作成しています。



最近のわが国周辺の安全保障関連事象



上図は平成27年版防衛白書から抜粋したものです。防衛白書は防衛省ホームページからどなたでも閲覧可能です。是非下記URLにアクセス下さい。
<http://www.mod.go.jp/j/publication/wp/>



御嶽山噴火にかかる災害派遣に従事する陸自隊員



平成27年8月5日（水）神奈川県相模原市の相模女子大学グリーンホールにおいて、「第26回防衛問題セミナー」を開催しました。今回のセミナーは、『装備品の研究開発と防衛産業』をテーマに、陸上装備研究所における装備品の研究開発について、技術研究本部陸上装備研究所の山口弘所長から、また、防衛装備品の基盤の多くは民間の防衛産業が担っていることから、防衛産業の現状と未来について、防衛ジャーナリストの桜林美佐氏から講演していただき、装備品の研究開発や防衛産業への理解を得るために開催しました。

当日は、主催者である丸井南関東防衛局長から開会挨拶があり、引き続き、両講師からの講演に入りました。



写真：山口講師

山口講師からは、陸上装備研究所の紹介から始まり、大規模災害や国際平和協力活動等の対応の際に「自衛隊員の被害・損傷を最小限にする」ために陸上装備研究所が研究・開発に取り組んでいる遠隔操縦作業車両システム等についての具体的な説明がありました。聴講者からは、「研究中のテーマを説明していただき大変参考になった」（50代男性）、「どのような研究開発をしているか理解できた」（30代男性）という感想が寄せられました。



写真：丸井局長



写真：桜林講師

桜林講師からは、装備品の調達が減少し、国内企業が事業から撤退するといった事象が起きているが、日本の技術は非常に高く評価されており、国産で装備品を製造できる技術を持っていることに大きな意味があること、その一方で輸入も大切であるという防衛産業の抱える課題、また、装備品の海外移転は外交安全保障の施策として有益ではあるが、国が一体となってサポートする体制が必要といった説明がありました。聴講者からは「防衛産業の実情が分かりやすく説明されていた」（50代男性）、「防衛産業が抱える問題を多くの視点で説明され勉強になった」（50代男性）という感想が寄せられました。

「遊びに来ませんかスタジオへ」

F M ブルー湘南「遊びに来ませんかスタジオへ（防衛トーク）」では、毎月第3木曜日午後3時から丸井南関東防衛局長が出演し、パーソナリティの灯織（ひおり）さんとともに日本の防衛政策などについて紹介しています。
 8月20日は在日米海軍司令部参謀長ステイーヴン・ウィーマン大佐をお話の一部を紹介しました。在日米海軍司令部副司令官も務めるウィーマン大佐のお話の一部を紹介します。

（在日米海軍司令部の概要について）

- 一在日米海軍司令部では、米海軍と海上自衛隊、そして日本の皆様との連絡や調整の主要窓口として職務を行っています。
- 一在日米海軍司令部には日本人従業員が働いており、基地の警備から台風など災害時の対応、海軍兵の家族に関わる事柄まであらゆる仕事を担当しています。日本人従業員は財務管理部から広報部にいたるまであらゆる部署に配属されています。
- 一基地では、毎年およそ四半期ごとに地元の皆様と交流イベントをおこなっています。最近では8月にヨコスカフレンドシップデーが開催されました。私たち海軍兵の多くは横須賀市に住み、このようなイベントを通じて、地元の皆様との関係を深めることができ、毎回、大勢のお越しにたいへんうれしく思います。

（基地内外の災害に備えていることについて）

- 一米海軍では、必要とされるあらゆる災害支援対策に貢献したいと考えています。私たちはビッグレスキューかながわをはじめとする、県や市の防災訓練に頻繁に参加しています。自衛隊や県や市の危機管理局との連携は、万が一必要となった時に対応できるようにするために重要なものです。
- 一空母ロナルド・レーガンが、第7艦隊所属の新たな空母として前方配備されます。この船の配備は、日本の防衛や西太平洋地域の安定に大きく寄与しますが、2011年の東日本大震災発生後、海上自衛隊と共に仙台で救援活動を行ったように、この船は災害支援にも対応することが可能です。空母ロナルド・レーガンの配備は、アメリカが担う日米同盟そして日本の皆様への責務を確固として示すものです。



写真左から、丸井局長、ウィーマン大佐、畑尾通訳

「ビッグレスキューかながわ」

8月31日、厚木市の神奈川県総合防災センターほか2会場において、ビッグレスキューかながわ（平成27年度神奈川県・厚木市合同総合防災訓練）が行われました。この訓練は、神奈川県と厚木市の主催により、大規模災害発生時の初動対応における救急医療等を主体として、防災関係機関、医療機関、自主防災組織などの参加により実施する広域的な総合防災訓練です。



写真：訓練会場（神奈川県総合防災センター）



写真上下：現場救護所において通訳支援する当局職員

訓練は、都心南部を震源とするマグニチュード7.3の発生を想定し、最大震度6強を観測した厚木市、伊勢原市等で甚大な人的・物的被害が発生したとの想定で実施されました。防衛省・自衛隊からは、第31普通科連隊、第4施設群、第1高射特科大隊、横須賀地方総監部、第4航空群司令部、自衛隊横須賀病院等に加え、南関東防衛局も参加しました。また、在日米軍からは、陸・海・空軍がそろって参加しました。

在日米軍は、県の要請により医療チームをヘリや車両で被災地内に派遣し、神奈川県DMAT、自衛隊等の医療機関と連携して、負傷者の救護活動訓練を行いました。南関東防衛局は、災害現場から消防や自衛隊等により救出された会場内の現場救護所に搬送された負傷者のトリアージを行うに際して、在日米軍の医療チームと負傷者等の間の通訳支援を実施しました。

当日は、消防や警察、病院等約115の機関と市民で作る自主防災組織が参加しました。

沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施―東富士

沖縄県に所在する米軍施設キャンプ・ハンセンにおいて実施されていた155ミリ榴弾砲による沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練は、米軍施設・区域が集中する沖縄県の負担軽減を図り、また日米安保体制の信頼性の向上を図りつつ、米軍の練度維持及び即応態勢を保持するため、平成9年度から本土の5演習場にて分散・実施されています。

南関東防衛局管内では北富士演習場と東富士演習場でこの訓練が行われており、当局は訓練の円滑な実施のためのサポートを行っています。



沖縄県、キャンプ・ハンセンで実施されていた米軍による沖縄県道104号線越え155ミリ榴弾砲による実弾射撃訓練は、県道104号線をまたぐ形で射撃が行われるため、県道を封鎖して実施されていました。

平成8年8月、日米合同委員会において、沖縄県の負担の軽減を図るなどの観点から、この訓練を本土の5演習場で分散・実施することが合意され、翌年度の平成9年度から、本土5ヶ所の自衛隊演習場（矢臼別、王城寺原、東富士、北富士及び日出生台）で訓練が実施されています。



本年9月に、静岡県に所在する東富士演習場で本訓練が実施されました（準備期間等を含む）。参加人員は約380名、車両100両、砲12門による大隊規模による訓練が、9月11日から18日の間榴弾砲等による実弾射撃訓練が行われました。

南関東防衛局は、管内に所在する北富士演習場及び東富士演習場における訓練時には現地対策本部を設置し、訓練の円滑な実施のため24時間体制で支援を行いました。

今回の東富士演習場における訓練においても、米海兵隊に対する訓練実施のための支援はもとより、地元自治体への説明・情報提供、陸上自衛隊や警察等関係機関との調整、演習場周辺の整備など、訓練の円滑な実施のための総合的な支援を実施しました。

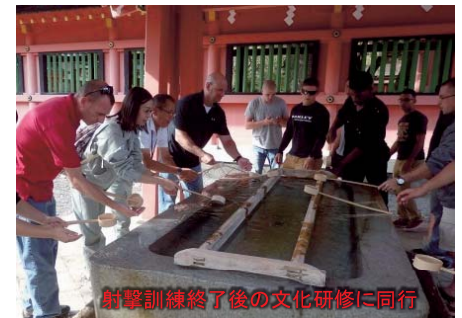
（写真は現地対策本部の活動の様子を紹介するものです）



現地対策本部での訓練参加部隊長の表敬



訓練参加部隊長と意見交換を行う丸井局長



射撃訓練終了後の文化研修に同行



訓練打ち合わせ風景

護衛艦「かが」命名・進水式

平成27年8月27日(木)、ジャパン マリンユナイテッド株式会社横浜事業所磯子工場において、護衛艦「かが」(平成24年度契約、全長248メートル、基準排水量19,500トン)の命名・進水式が行われました。

式典には、防衛省から代表として左藤防衛副大臣のほか、武居海上幕僚長、井上横須賀地方総監、南関東防衛局からは丸井局長が出席しました。来賓として松島衆議院議員及び山田衆議院議員が出席されました。防衛省関係者や会社関係者等、約3,600人が見守る中、本艦は「かが」と命名され、左藤防衛副大臣の支綱切断により進水しました。



写真：左藤防衛副大臣

護衛艦「かが」は、海上自衛隊最大級であるヘリコプター搭載護衛艦（DDH）の「いずも」型2番艦です。本艦は多様な任務に対応するため、航空機運用機能や大規模災害対応能力などを強化しています。

平成25年10月に起工、平成29年3月に就役し、海上自衛隊に配備される予定です。



写真：左から4人目 丸井局長



写真：護衛艦「かが」

【平成27年度富士総合火力演習】



写真：静岡県：東富士演習場における総合火力演習

平成27年8月23日、南関東防衛局管内の静岡県東富士演習場において平成27年度富士総合火力演習が行われました。当日は好天に恵まれ、応募による抽選の結果、来場することが出来た2万人を超える観客、招待を受けた当局を含む関係機関、来賓の前で陸上自衛隊の各部隊が火力を装備ごとに紹介し、歓声を受けていました。

後半では自衛隊の航空機による展示飛行に続き米海兵隊オスプレイも展示飛行を行いました。

当局は、同演習の円滑な実施のため地元自治体へのオスプレイの飛来情報の説明等によりサポートを行いました。

土本南関東防衛局長着任挨拶（27. 10. 1 付着任）



10月1日付けで南関東防衛局長を拝命いたしました土本英樹でございます。着任にあたり一言ご挨拶申し上げます。この度、南関東防衛局長の重責を担うこととなり、大変名誉に思うのと同時に、その責任の重さを感じ、身の引き締まる思いが致しております。また、その一方で、本日ここにお集まりいただいた、第一線の現場で活躍している皆さんのお顔を拝見し、大変心強く感じているところです。

地方における防衛行政の拠点として、地方防衛局の役割は益々重要なものとなっております。地方防衛局が、防衛政策全般について地方公共団体や地域住民の理解と協力を得るという任務の下、様々な事案に係る地元調整、米軍・自衛隊の事故等における迅速な連絡調整、防衛施設の建設工事あるいは維持・管理業務、装備品の調達に係る検査・監督業務、防衛セミナーの実施等による防衛省の重要政策に関する理解の増進、さらには地震等の自然災害に際しての地元自治体や自衛隊との連携等、その業務は多岐にわたっております。

南関東防衛局の管轄区域は神奈川県、山梨県及び静岡県の3件と承知していますが、その管内には陸・海・空三自衛隊の主要部隊と重要施設があり、また、米軍についても、在日米陸軍司令部、在日米海軍司令部、厚木飛行場等、陸軍、海軍の主要施設が所在し、まさに日米の重要な防衛施設が集中しているところであります。

そのため、東富士・北富士両演習場の使用協定、米軍再編に伴う施設整備事業や駐留軍等労働者の雇用の確保、厚木飛行場周辺における航空機騒音問題等懸案事項も多く、8つの地方防衛局の中でも大変忙しい局であると承知しております。

南関東防衛局の職員の皆さんは、長い間、重要な基地問題を担当してこられた中で培われた貴重な経験のもと、各部各課のチームワークにより、様々な問題を乗り越えてきたと承知しております。困難な課題に対し組織をあげて立ち向かってきた当局の良き伝統をさらに発展させ、皆さんと力を合わせて、諸問題の解決に全力をあげて参りたいと考えております。

このため、各部各課のさらなる強力な連携の下、一人一人の職員が強い責任感と使命感をもって仕事を進めていただくことを改めてお願い申し上げ、私の着任の挨拶と致します。

平成27年10月
南関東防衛局長 土本 英樹

表紙の写真

富士総合火力演習は、陸上自衛隊の各部隊がその装備を日々の訓練に基づく高度な技量を展示する場でもありません。東富士演習場の後背地に世界文化遺産である富士山が立地していることから、観客の皆様から見た砲弾の空中での炸裂が見事に富士山を模っていることにお気づきいただければと思います。

